

第4回忍性さん勉強会概要報告

- ◇開催日時 平成28年9月5日（月）19時～21時
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館 モデル教室
- ◇参加者 今井・中村（済美南）、山下・伊知地（伏見）、石田（済美）
北村・中澤（奈良教育大学）

◇内容

指導案の検討

（1）「忍性さんの生き方から学ぼう」

中村先生

6年生：社会科・道徳・総合

- ・忍性さんのことは全然知らないので、行基さんから学習に入っていく
- ・共通点「菩薩」
- ・行基さんのことは知っているのに、忍性さんのことは知らない。だから調べよう。← もっとインパクトのある導入が必要ではないか？
- ・活動のゴールは新聞づくり（NIE）につなげる
吉澤先生に新聞を見ていただいて、記事の優先順位、内容などについてコメントをもらいたい。
- ・博物館のチラシに掲載されている数字は、インパクトがある。
ハンセン病患者救済記事 施業した服の数
主発問：「なぜ、菩薩号をおくられたのだろうか」
導入：数字を前面に出して、関心を高めてはどうか。



（2）「十種の請願について知る」今井先生

5年生：総合的な学習の時間・世界遺産学習

- ・読み解き、現代でも通じるところがあるんじゃないか。
- ・学級の十種の請願をつくる。
十種の請願を通じて、自分たちの学級でのルールづくりにつなげていく。
→ よくある学級ルールではなく、忍性さんを学んだことが影響していることがわかるルールづくりになるかどうかポイントだろう。
- ・調べる手がかりはどうするのか？
導入：さまざまな現代の十種の請願にちかいものを提示し、十種の請願もまぜてみせる。比較を通して、なぜ、このような請願をつくったのか、請願をつくった忍性さんとはどのような人だったのか、忍性さんの生き方に迫る。

（3）「福祉を支える「愛」について学ぼう」山下先生

4年生：道徳

- ・マザーテレサ→忍性さん
- ・パラリンピック→福祉
- ・福祉って何かなあ。

- ・DVDを教材にする

主発問「日本のマザーテレサと言われるのはなぜだろう」

導入：パラリンピックの映像（マラソンの伴走者）

日本人女性選手（事故で）立ち直るのに支える人がいた

支える＝救済

支える人を支えるものが「愛」だ。

（4）「奈良に関わる「すごい人」を探ろう

5年生：総合的な学習の時間

- ・アブシンベル神殿→旧JR奈良駅舎
- ・奈良に関わる宝物とそれにかかわった人物を自由研究にしている。
- ・忍性さんは「すごい人」のひとりとして扱う
- ・その人は何をしたのか、どういう思いでしたのか、その人の思いに迫る
- ・忍性さんの絵本づくり → 発信する

導入：北山十八間戸から見える写真、東大寺も見える、

鎌倉極楽寺の古地図を使ってはどうか。

まず、大きなお墓をみせる

「亡くなってから3つも大きなお墓を作ってもらった人ってどんな人？」

極楽寺の古地図から、普通のお寺と違うところを見つけ、どんな人だったのか想像する

（5）指導案の形式について

- ・論点整理につづいて、8月1日にもポイントが文科省より提示されたことで、評価の観点も3観点化することは確実だろう。知識・技能、思考・判断・表現、学びに向かう態度・人間性
- ・今回の指導案では、3観点で作成することを基本とするが、学校の状況に合わせて4観点でも構わない。

（6）その他

- ・吉澤先生に来てもらいたい学校は、まず吉澤先生に電話連絡し（学芸部の吉澤先生を呼び出してもらう）、日程調整をする。その後、学校長から博物館長・吉澤先生本人宛に依頼文を送付する。
- ・北村・中澤でよければ、依頼文は不要 メールで日程調整し、学校長の許可をとってください。
- ・9月中に修正した指導案をメールで中澤まで送ってください。
- ・実践をされたところを見計らって、第6回目の勉強会を開催し、実践事例にまとめる方法について検討します。

